

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

タイトル：「契丹語・契丹文字研究の新展開」（平成22年度第2回研究会）

日時：平成22年7月4日（日曜日）午前10時より午後3時

場所：京都大学文学部新館 第3演習室

報告者名（所属）：

1) 武内康則（武内康則AA研共同研究員，京都大学）

「契丹文字・契丹語の基礎事項」

契丹語の言語資料と、先行研究における契丹文字解読のプロセス、契丹語研究の現状について報告した。契丹語の言語資料としては、漢文資料に漢字による音写の形で残されたものと、契丹文字によって残されたものがある。

1. 漢字音写資料

漢字音写された契丹語としては、『遼史』や『契丹国志』に残されたものがよく知られている。また、他の漢文資料にも断片的に契丹語の漢字音写が残されている。于(1998)は漢文資料に見られる契丹語の漢字音写を整理し、全部で375語を収集している。これは、この種の研究の中で最もまとまったものといえる。これらの漢字音写は、聶(1988)で指摘されたように契丹語の音声をある程度反映している可能性があり、契丹語の音声・音韻を研究する上でも非常に貴重である。

聶鴻音(1988)「論契丹語中漢語借詞的音系基礎」『民族語文』1988年第2期: 41-49.

于宝林(1998)『契丹古代史論稿』合肥: 黄山書社出版.

2. 契丹文字資料

『遼史』によると、遼(916-1125)の時代に定められた文字は、契丹大字と契丹小字の2種類あり、神冊5年(920年)に遼の太祖・耶律阿保機(やりつあぼき)によって契丹大字が公布され、その後に太祖の弟である耶律迭剌(やりつてつら)によって契丹小字が考案されたとされる。

・大字

漢字の字形をそのまま使用した文字も比較的多い。表意文字・表音文字ともに含まれていると考えられる。文字数は多く異体字を含め1500字ほどある。出土している墓誌は小字資料と比べると少ない。小字と比較すると解読も遅れている。

・小字

ハンゲルのように要素を組み合わせて記す。表意文字・表音文字がともに含まれている

と考えられる。構成要素である「原字」は 440 ほど確認されている。墓誌は 30 ほど公開されている。1970-80 年代の「契丹文字研究小組」の研究により解読は大きく進展した。

近年の研究によってこれらの解読は進展し、小字に関しては半分以上の原字に音価が与えられている。墓誌に記された人物の経歴や親縁関係はある程度読み取ることが可能となった。

3. 契丹語研究の問題点

- ・出土した資料のすべてが研究に利用可能な形で公開されているわけではない。
- ・資料の注釈や翻訳、辞典の作成などの基礎的研究が十分ではない。
- ・契丹文字の使用された 11-12 世紀は中古音から近世漢語への移行期であり当時の中国語の様子は必ずしも明らかではない。
- ・組織的に契丹文字の研究が行われてきたとは言えず、音価推定などにおいてもしばしば場当たり的に進められてきた傾向がある。

2) 荒川慎太郎 (AA 研所員)

「近年の契丹小字研究について」

「契丹小字研究の現在」『龍谷史壇』127 (呉英喆, 2007) より、契丹小字、契丹語学に関して、近年の 4 つのテーマを紹介した。

2007 年までの研究によれば、440 を超える契丹小字「原字」の、半分以上の発音が明らかになっており、およそ 1300 の単語 (全ての単語数の 10% を占める) の意味が解読されている。さらに、十数種の接辞と一部の文単位の意味が判明しているという。音韻・形態面でいえば、契丹小字においては、「契丹小字に母音調和がある (清格爾泰)」, 「“数詞”が連用修飾語になる場合、数詞とその被修飾語が一致する (高路加)」などが報告されている。

1. 序数詞, 数字と文法「性」

契丹小字の序数詞の語尾が、付加される語彙の性別によって異なることが示される。ただし、語尾の推定音が示されないなどの問題がある。

数詞が付加されるのが、もし男性名詞である場合、数字に「点」を付け、女性の場合には付けないことが示される。ただし、数字は表意文字的に使われるものなので、数詞の音形に男女差があったかは明らかにできないという問題がある。

2. 父子の「連名」現象

契丹人の名前に関する興味深い事例。長男の幼名は、父の二番目の名前と同様な語根を持ち、父の二番目の名前から所属格を除けば、長男の幼名になるという。(むしろ「長男の幼名」+「の」が、「父の二番目の名前」として記録されていた、と言い換えても良い)

3. 子音「原字」への母音添加

場合によっては、一つの「原字」には二つの読み方 (母音を子音の前に置くか、あるいは

は後に置くか) があるといわれる。そのように読む規則を、他の「原字」に当てはめてみると、一部の「原字」の発音がモンゴル語とよく似ていることが分かるという。ただし、比較するモンゴル語の語義にはいくつか問題がある。

4. 漢語入声韻尾の痕跡

契丹小字（原字）からみると、漢語の「入声韻尾(-p, -t, -k)」の痕跡が確認できるという説。ただし、例には「契丹人名」の漢字音写など、本考察に適切と思われない例も見られた。今後の用例の拡張が俟たれる。

3) 近年の契丹研究に関する情報交換（全員）

上記の説明・報告に引き続き、全参加者で情報交換、HPの確認、今後の作業、次回研究会日程に関する打ち合わせを行った。